

●地方創生加速化交付金事業の状況(重要業績評価指標等による検証結果の公表)

◇事業名 立山黒部ジオパークを活かした魅力ある山岳・温泉エコリゾート構想の更なる推進

(事業分野 まちづくり 平成 28 年度実施 (平成 27 年度採択))

◇事業主体 民間団体

◇事業の概要

黒部市宇奈月温泉を舞台に「山岳・温泉エコリゾート構想」を加速させるべく、同地域を擁する「立山黒部ジオパーク」の普及推進活動と連携した取り組みを展開し、地域資源を活かしたツーリズムの活性化や未利用エネルギーの利活用を行うことで、その相乗効果を生み出し宇奈月温泉のまちづくりをより一層推進していく。

【取組】

I. ジオパークを活用したまちづくりの実現

地域の自然や文化などのジオパークの豊富な地域資源と EMU (電気コミュニティビークル) が代表するエコリゾート構想の魅力を組み合わせたツーリズム事業を実施し、宇奈月温泉街のにぎわい・活性化に繋げていく。さらに、来訪者と地元の方が気軽に地域の魅力を語り合える交流の場「ジオカフェ」や学生の研修や宿泊も兼ねた「宿泊施設」を整備し、黒部市ならではの観光客誘致の取組みを展開するとともに、隣接市町村とも連携しながらジオパークエリア全体の地域活性化を図っていく。

II. 自然と共存した地域資源のさらなる活用

産業廃棄物として毎年処理している黒部川水系の流木の資源化を目指し、大学と連携し「流木を薪ボイラーとして利活用するための調査研究」を実施する。この研究を通じて、持続可能な社会を目指すジオパークの理念を眼に見える形として表現するとともに、温泉街のクリーンエネルギー (エコ) によるまちづくりに貢献していく。さらに、未利用温泉熱の有効活用として「“バイナリー発電”→“温泉”→“廃熱の空調利用”」のカスケード利用の確立を目指す。このような未利用エネルギーを有効活用する仕組みを「宇奈月モデル」として確立し、特許化を目指した研究を進めながら、全国に普及展開することで新たな雇用を創り出していく。

III. 実証実験施設としての創蓄省エネルギービルの整備

上記 I、II の取り組みを実証する場所として、宇奈月温泉街の利用休止中の施設を改修・整備することで相乗的な効果を狙う。薪ボイラーや未利用温泉熱の実証実験を行い、エネルギーを最大に利活用した「創蓄省エネルギービル」として域外から注目を浴びる施設を目指すとともに、ジオカフェや宿泊施設など来訪者が交流できる空間・機能を有するものとする。

◇重要業績評価（KPI）指標等

評価項目	KPI 1	KPI 2	KPI 3	外部組織の評価
KPI の名称	ジオツアーの参加者数	コミュニティビークル EMU の年間乗車人員	創蓄省エネルギービルの入館者数	
KPI の分類	総合的なアウトカム	総合的なアウトカム	交付金事業のアウトカム	
計画時点 平成 28 年 3 月	381 人	3,476 人	0 人 (開館以前)	
(目 標 値)				
事業終了時点 平成 29 年 3 月	500 人	10,000 人	1,000 人	
平成 32 年 3 月	5,000 人	16,400 人	8,000 人	
(実 績 値)				
事業終了 平成 29 年 3 月	562 人	20,208 人	39 人 (開館前)	創蓄省エネルギービルの開館が平成 29 年 4 月 28 日となったため、一般利用が遅れた。

◇外部組織等による本事業の評価

(平成 28 年度末から平成 29 年度)

黒部市議会立山黒部ジオパーク促進特別委員会

平成 29 年 3 月 事業成果報告

平成 29 年 6 月 創蓄省エネルギービル（立山黒部ジオパーク交流施設わくわく広場 うなジオ）視察

一般社団法人立山黒部ジオパーク協会・宇奈月温泉街再生戦略会議

平成 29 年 7 月 意見聴取

※立山黒部ジオパーク交流施設 わくわく広場うなジオが開館し、順調に成果を上げている。

- ・立山黒部ジオパークの黒部側の玄関口として重要な施設。ツアーが充実する。
- ・ジオパークを知らない観光客に新たな楽しみ方を示すことができる。
- ・パンフレット配布や PR により認知度をあげ、ツアーや学習の機会に利用を促す。
- ・施設への誘導のための表示を整備する必要がある。